

学び・成長の保障を

複雑な申請手続き——文科省が改善を約束

大平喜信衆議院議員が文部科学委員会の質問で要求

就学支援金 奨学給付金

高等学校

日本共産党の大平喜信衆議院議員は3月27日、文部科学委員会で高等学校の就学支援金・奨学給付金制度を取り上げて申請手続きの改善を要求。文科省も改善を約束しました。

同制度は、今年度から新たに導入されたのですが、制度の複雑さに加え、入学初年度は就学支援金と奨学給付金を合わせて年3回の申請が必要で、保護者や担当職員の負担となっています。

大平議員は、「手続きの

煩雑さから途中で申請を辞退するケースが生まれたという報告がある」と指摘し、給付金の申請を支援金の申請と合わせておこなうようにするなど、手続きを簡素化して申請回数を減らすよう求めました。

文部科学省は、「(給付金申請を支援金申請の)2回目と合わせて行うことは可

能だ」と答弁しました。

大平議員は、ひとり親家庭の場合、その理由などを詳しく書かせる申請書の問題を追及。「親が離婚したこどもに対して(心に受けた傷に塩をすり込むような本心にひどい仕打ちだ」と迫り、下村博文・文部科学大臣は「プライバシーに配慮した簡便なチェック項目式に改める」と答えました。

大平議員は、この問題の最大の要因が授業料無償化に所得制限を導入したことにあると指摘し、高校無償化を復活させ、教育の無償化を前進させるよう求めました。

私学助成・ゆきとどいた教育の署名提出集会に参加

大平喜信衆議院議員は、私学助成の拡充を求める署名(2月19日、写真)、ゆきとどいた教育を求める署名(同27日)の提出集会に参加し、教育行政の充実に全力を尽くす決意を語り、参加者を激励しました。

